



**日本共産党  
西宮市議会議員**

2020年8月24日発行  
【共産党議員団控室】六湛寺町10番3号  
(TEL)0798-35-3368 (FAX)0798-22-7815  
(携帯)090-7764-0743

# ひぐち光冬 みつ ふゆ 通信 Vol. 26

## MBS で放映! はね橋問題

—『跳ね橋』1日4回開くが...通る船は年間ゼロ!? “15分間も待ちぼうけ”で住民らは一

2020年8月17日放送 **MBS テレビ「News ミント！」**内『**憤懣本舗**』で  
放送されました。 **YouTube**でも視聴可能です(「跳ね橋 憤懣本舗」で検索🔍)。

①私が6月議会で取り上げた「御前浜橋(はね橋)問題」がMBSの記者さんの目に留まり、この度テレビ(4チャンネル)で放映されました。

西宮浜に住む7000人以上の住民や西宮浜へ仕事やレジャーで行く人たちはこの橋を日常的に利用していますが、土日祝になると1日4回跳ね上がり、1回あたり約15分間住民は足止めを食らうことになります。船が通るならまだしも、船が通らないのに橋が開き、まさに“憤懣”です。



②「本当に腹立たしい」「本当に税金の無駄遣いという感じがしますよね」と取材を受けた上田幸子さん。上田さんは「一度も大型船を通ったところを見たことがない!」と憤ります。

放送の中で「2005年には“123艇”の大型船の航行があった」と言われていましたが、共産党の独自調査の結果、その数字には開閉の必要がないモーターボート等の航行数が多く含まれている可能性が高いことがわかっています。

③実際に、MBS記者自ら8月10日(日)に調査をしたところ、通過した大型船はゼロ。待ちぼうけの住民にインタビューをし、「意味ないですよ」「大型船が通るのは見たことがない」「できるだけ引っかからないように気を付けているが、いま、あっしまった!と悔やんでいます」との声。この猛暑の中での足止めは誰にとっても苦痛です。



④ここから注目発言が続きます。船乗りであり、橋の開閉作業を請け負っている諏訪禎男氏が登場。インタビューに対し、「風任せのヨットが15分間の間にはね橋を通過するのは難しい」「我々は遊んでいる側ですから、少し我慢したらいいのかな」と発言。

西宮市はこれまで諏訪氏をはじめとする“船乗りたちの航行権”を守るために橋の開閉を続けてきました。ところがその船乗り自身が「航行は難しく我々が我慢すべき」と言ったのです。



⑥市の担当者は「具体的な方法が残念ながら事実としてなかなか見つかってきていない。我々公共側としてもいかにそれに対応していくのかという気持ちは十分に持っています」と発言。MBS 記者に「気持ちで終わらず？」と問われ、「もちろんです。実行で見せていかなければならない」と答えました。

最後にコメンテーターから「行政側の明らかな怠慢」の発言が出て締めくくられました。

⑤このはね橋の開閉には年間で約300万円の税金がかかっています。これだけの税金をかけて、年間で約36万人（公式交通量調査より）にも及ぶ歩行者・自転車に足止めを食らわせている上に、船乗りの役にさえ立っていないのです。誰にとってもメリットがないどころか、“迷惑”にしかかっていないこの事業を西宮市は一体どうするつもりなのでしょう？



## 🔍 御前浜橋（はね橋）問題って？

1995年の阪神大震災で西宮浜に復興住宅が建設され、工業地帯であった西宮浜に人が住むようになりました。人が住む以上“歩行者や自転車も負担なく渡れる橋”が必要となり、1999年に供用開始されたのが御前浜橋でした。しかし、元々船が自由に航行していた場所であったため、船乗りたちから“航行権”を求める声が上がりました。そこで“折衷案”として出されたのが“はね橋にする”という案でした（当初から共産党は「固定橋にすべき」と主張していましたが）。

それから21年経ちますが、大型船が通らないにも関わらず、はね橋の開閉は続けられています。その開閉を西宮市から請け負っているのが「阪神地区マリン利用促進協議会」で、その代表がテレビにも登場した諏訪禎男氏です。しかしこの協議会は我々の調査で近年の活動実績は全くなく、決算報告もなされていないことがわかっています。そのような団体に西宮市は我々の税金から年間約300万円の委託をしているのです。

私たち共産党は税金を使って住民に迷惑をかけているこのはね橋の開閉を一刻も早く中止させたいと思っています。今回の放映をきっかけにさらに行政への働きかけを強めていきたいと思っていますので、ぜひみなさんもお協力ください。よろしくお願いたします。

※さらに詳しい情報は「ひぐち光冬のブログ」および「ひぐち通信 vol.25」に記載しています。